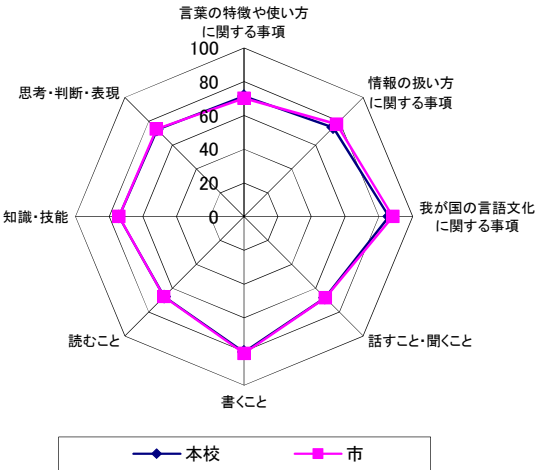


宇都宮市立豊郷中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	71.5	70.2	64.7
	情報の扱い方に関する事項	74.9	77.6	71.1
	我が国の言語文化に関する事項	86.0	88.3	79.1
	話すこと・聞くこと	68.0	68.2	67.4
	書くこと	80.3	81.1	71.7
	読むこと	67.0	67.2	61.3
観点別	知識・技能	74.2	74.2	67.9
	思考・判断・表現	73.0	73.5	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

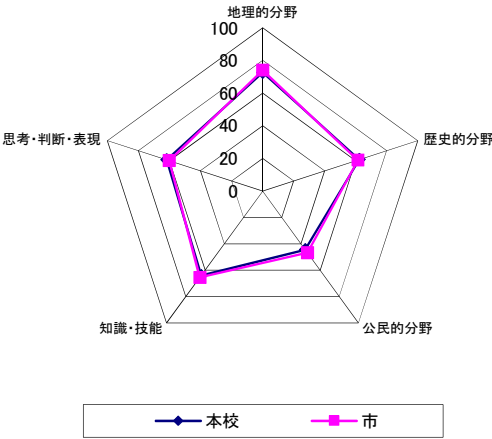
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率が71.5%で市平均を1.3ポイント上回った。 ○漢字の読み問題は市平均より2～6ポイント上回っていて、書く問題は市平均より1～3ポイント上回った。 ○文法問題は市平均より1～4ポイント上回った。 ○敬語に関する問題は、市平均より2ポイント上回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・中学3年生までに習った漢字の読みは身につけているが、小学生で習った漢字の書きが定着していないものがある。日頃から、既習のものは漢字で書くように指導していく。 ・文法は繰り返し問題を解くことが大切である。1年生の内容から段階的・反復的に指導をしていく。 ・敬語に関しては、普段から適切な敬語を意識して使うように指導していく。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率が74.9%で、市平均を2.7ポイント下回った。 ●情報の扱い方に関する問題の正答率は、2問中2問とも市平均を1～4ポイント下回った。	・情報の扱い方に関する事項は、2問とも短答で書く問題である。グラフから必要な情報を適切に取り、文章で書くことを苦手としている生徒は多い。説明的文章を読む際に、グラフや表、新聞記事などから情報を正しく読み取り、扱うことを重点的に指導していく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率が86.0%で、市平均を2.3ポイント下回った。 ●歴史的仮名遣いを読む問題の正答率は、市平均を0.2ポイント下回った。 ●現代語訳をもとに古典を読む問題も市平均を4ポイント下回った。	・歴史的仮名遣いの読みが定着していないので、読み方の基本事項を再確認し、問題に取り組むよう指導する。 ・古典の内容理解に関しては、分かる言葉から内容を理解できるようにすることが大切である。古典作品を読む際に、おまかな内容を適切に取り、現代語で考えることを意識させる。
話すこと・聞くこと	平均正答率が68.0%で、市平均を0.2ポイント下回った。 ○話の展開を予想しながら聞く問題は、市平均を2.3ポイント上回った。 ●自分の考えを工夫して表現したり、考えを深めたりする問題は市平均を2ポイント程度下回っている。	・話の展開に関する問題の正答率が高いことから、普段から他の人の発表を、次の展開を考えながら聞いていこうと考えられる。 ・自分の考えを明確にして論理の展開を工夫したり、相手の発表から自分の考えを更に深めることを苦手としている生徒は多い。お互いの考えを伝える工夫や話し方・説明の仕方の工夫について指導していく。
書くこと	平均正答率が80.3%で、市平均を0.8ポイント下回った。 ○指定された条件で文章を書く問題は、市平均を全て3ポイント程度上回った。 ●自分の考えを分かりやすくレポートに書く問題は、市平均を4ポイント程度下回った。	・書き方が決められた作文を書くことはできるが、既習の作文の書き方を活用して、根拠を明確にした文章を書くことを苦手としている生徒が多い。さまざまな文章に触れ、より分かりやすい文章の書き方を身に付けさせる。 ・自分の考えを伝えるように工夫して書く記述解答の問題での無回答率が市平均を4ポイント程度下回った。普段から諦めずに答えを考えて書くような声掛けを行う。
読むこと	平均正答率が67.0%で、市平均を0.2ポイント下回った。 ○説明的文章の展開についての問題は、市平均を5ポイント上回った。また、物語の展開についての問題も1ポイント上回った。 ●論理の展開や文章表現についての問題は、市平均を2ポイント下回った。また、情報と情報の関係や文章から自分の考えを深める問題は、1ポイント上回った。	・文章の展開について捉える問題はできているため、全体の構成を把握することはできていると考えられる。しかし、情報と情報の関係を理解し、論理の展開の仕方を捉えるなど、把握する内容が増えると、正答率が低くなる。段落相互の関係や接続詞などにも注意して構成を捉える機会を増やしていく。

宇都宮市立豊郷中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	72.6	74.0	67.9
	歴史的分野	62.3	61.5	56.1
	公民的分野	44.5	46.9	40.7
観点別	知識・技能	64.1	65.5	60.6
	思考・判断・表現	61.9	60.2	52.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

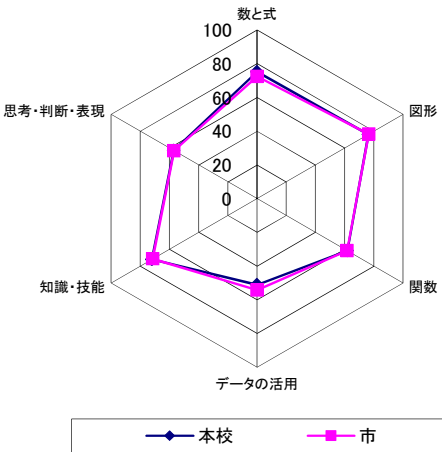
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	地理的分野の平均正答率が72.6%で市平均を1.4ポイント下回った。 ○「世界の姿」「日本の地域的特色」に関する問題の正答率は、市平均を数ポイント程度上回る問題が多かった。 ●「日本の諸地域」に関する問題の正答率は、市平均を全て下回っていた。特に、九州・中国・四国・近畿地方の工業に関する問題は6ポイント下回った。	・世界地図や地球儀などの教材を用いて学習課題の解決を図る授業を積極的に実施する。 ・複数の主題図やグラフ、統計資料などを活用して位置や分布、推移などの情報を読み取り、その結果をまとめる学習活動を授業で重点的に取り入れる。 ・多様な意見を尊重し、多面的・多角的な視点から社会的事象に気づかせるように、グループ活動や話し合い活動を積極的に導入する。その際、一人一台端末を積極的に利用する。
歴史的分野	歴史的分野の平均正答率が62.3%で市平均を0.8ポイント上回った。 ○享保の改革について考察する問題では、市平均を10ポイント上回った。 ●江戸幕府の対外政策や江戸時代の文化に関する問題が市平均に比べ、3.4ポイント下回った。	・各時代の特徴を理解し、時代ごとの共通点や相違点について比較・検討ができるように、単元や分野全体を見通した学習指導を実施する。 ・多様な資料をもとに当時の社会における人々の生活の様子や歴史的事象の因果関係を読み取ることができるよう、資料を取り扱う授業を積極的に取り入れる。 ・古代や中世、近世の政治の特色を比較・検討し、類似点や相違点に気付かせるような学習課題を設定した授業を実施する。
公民的分野	公民的分野の平均正答率が44.5%で市平均を2.4ポイント下回った。 ○さまざまな新しい人権が認められるようになった背景について考察し、表現する問題では市平均を9.3ポイント上回った。また、思考・判断・表現が市平均よりも1.7ポイントも上回っていた。 ●日本国憲法の三つの基本原理の問題では、市平均を9.8ポイント下回った。	・対立と合意、効率と公正などの判断基準を考察するために生徒の身近にある現代社会の事例を題材に取り上げる学習活動を積極的に導入する。その際、グループ活動や話し合い活動を積極的に取り入れ、思考の深まりを促すような授業を展開する。 ・時事問題を多く取り上げるなど、政治の仕組みや日本国憲法の特色について理解が深められるような学習活動を工夫する。

宇都宮市立豊郷中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	75.3	72.5	71.3
	図形	76.3	76.5	68.1
	関数	61.9	61.7	50.3
	データの活用	51.1	54.2	43.5
観点別	知識・技能	72.0	71.5	66.7
	思考・判断・表現	57.1	56.9	45.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

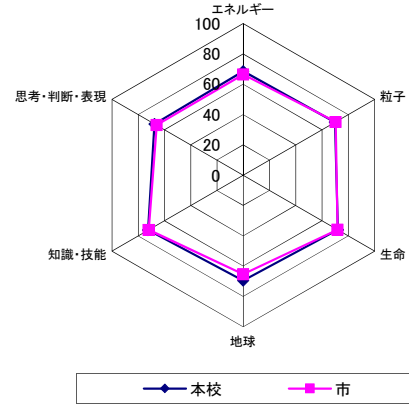
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	数と式の平均正答率が75.3%で市平均を2.8ポイント上回った。 ○式の計算、因数分解、2次方程式、平方根の問題で市平均を数ポイント上回っている。 ●与えられた文章問題から適切な連立方程式を立式する問題で市平均を6ポイント下回っている。	・継続的な基礎基本の学習を行うことで計算の技能についてはある程度学力がついてきていると考えられる。 ・文章問題から適切な立式ができるように、問題から図、式、表など様々な表現方法を用いて問題が何を表しているのかイメージできるような授業を行うことで思考する場面を授業で設定することが必要と考えられる。 ・学び合いの活性化の工夫を行っていく。
図形	図形の平均正答率が76.3%で市平均を0.2ポイント下回った。 ●平面図形、証明の問題で市平均並か数ポイント下回っている。	・ある程度図形についてのイメージをもって問題に取り組むことができる生徒と、図形にイメージをもてずに苦手意識をもっている生徒の差が激しく市平均並になっていると考えられる。 ・デジタル教科書や具体物を使用して図形、立体を理解する力をつけていく。 ・学び合いを活用することで説明する活動を取り入れ証明の力をつけていく。
関数	関数の平均正答率が61.9%で市平均を0.2ポイント上回った。 ○比例・1次関数の問題で市平均並か数ポイント上回っている。 ●2乗に比例する関数のグラフ上の正方形に関する問題で市平均を4ポイント下回っている。	・関数についての基礎基本については理解することができている。 ・関数の考えを活用して、図形の問題と関連して考える問題について授業で問題に取り組ませて、似たパターンの問題に授業で解いた考えを活用できるようにさせる。
データの活用	データの活用の平均正答率が51.1%で市平均を3.1ポイント下回った。 ●四分範囲を求める、ヒストグラムから累積度数を求める、箱ひげ図から読み取れないものを判断する問題で5～10ポイント市平均を下回っている。	・資料の活用について重要用語の意味について繰り返し学習をすることで定着できるように指導する。 ・資料が何を表しているか授業でグループ活動等で考える時間をとり、話し合わせることで資料の活用について深い理解ができるように指導していく。

宇都宮市立豊郷中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	68.6	66.5	61.2
	粒子	69.7	70.2	62.3
	生命	72.1	71.8	65.7
	地球	69.5	65.4	61.0
観点別	知識・技能	72.6	72.0	67.3
	思考・判断・表現	67.6	66.0	58.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

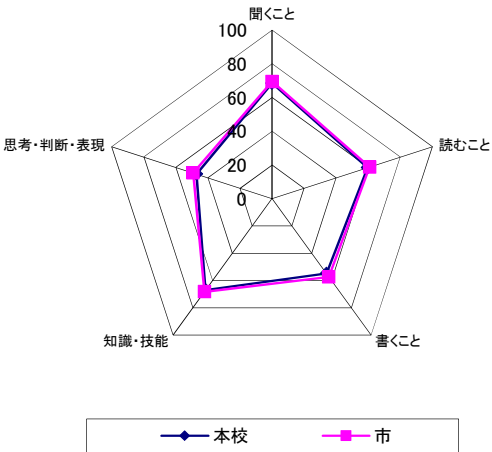
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○市全体の数値と比較して、「音の性質」「電流の大きさを求めることができる」を考える問題が低かった以外は、平均正答率は上回った。特に、「エネルギーの移り変わり」に関する問題では、市全体の正答率に比べ6ポイント以上上回った。また全体的に思考・判断の問題に比べて、知識を問う問題でポイントが高い傾向にある。 ●「音の波形から高い音と大きい音をしてきける」を考える問題が71.1%で、-3ポイント市全体を下回った。また思考・判断力の向上が課題である。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・用語を正しく理解することや教科書の内容については、多くの生徒がある程度の定着がされている。その知識の活用ができるよう、知識と図やグラフなどを関連付けて覚える授業を展開していきたい。また、身近な生活と結び付けて考えられるような事例を紹介していく。
粒子	○市全体の数値と比較して、平均正答率は下回ったが、「実験の考察を検討し、改善できる」の問題では正答率が61.8%と市全体を9.7ポイントも上回った。また、「酸・アルカリとイオン」の水酸化物イオンの数の変化に関する問題では、正答率が52.6%と決して高くは無いものの、市全体は2.7ポイント上回った。 ●「気体の性質」の二酸化炭素を発生させるために石灰石に加える液体を理解している。の問題では正答率が76.3%で、市の平均より5.2ポイント低くなっている。	・化学分野の内容は、身近にさまざまな例があるにもかかわらず、教科書に出てくるような物質名として認識されていないことが多いため、苦手感が大きいようだ。身近なものに関連付けながら学習に取り組ませる。また、知識を活用して考えさせる問題を多く取り入れ、データを読み取る力を育む。
生命	○市全体と比較して平均正答率は上回っている。4つの分野の中では、最も正答率が高い。特に「食べ物が最終的に何に分解されるかをわかっている」の問題では、89.0%と高い。市全体と比べても7ポイント以上の平均正答率となった。また全体的に思考・判断の問題に比べて、知識を問う問題でポイントが高い傾向にある。 ●「遺伝の規則性と遺伝子」について考える問題では3つの項目すべてで平均点を下回った。	・この分野は身近に実物があるので、これまで通り様々な体験を通して実感をともなう授業をしていく。知識については体験と結び付けて定着できるように取り組んでいく。また、遺伝の規則性に関しては自分の家族や自らのルーツを知る手掛かりになり、非常に自分の生活と関わりの深い単元になるので関連付けをさせ、定着させる。
地球	○市全体の数値と比較して平均正答率は上回った。特に「無色鉱物について理解している」の問題では、市全体の平均正答率を6.1ポイント上回った。また、「あたにかい空気とつめた空気との動きを推測できる」の問題では、市全体の平均正答率を3.1ポイント上回った。 ●「寒冷前線付近にできる雲について理解している」を答える問題では市全体の平均正答率を1.1ポイント下回った。	・数学的な公式に当てはめるだけの計算は得意なものの、与えられた情報からやり方を考えて答えを出していく論理的思考が苦手なので、その向上が課題である。この分野に関する知識は定着している生徒が多い。1対1の知識ではなく、関連付けていく定着方法を身につけ、活用させていく。

宇都宮市立豊郷中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	68.5	69.4	63.8
	読むこと	59.6	60.8	55.6
	書くこと	54.8	57.5	47.8
観点別	知識・技能	67.1	68.3	64.1
	思考・判断・表現	47.1	49.2	37.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	平均正答率は68.5%で市平均より0.9ポイント低かった。 ○聞き取った英文の内容について、その内容に合う絵を選ぶ問題においては、市平均並であった。 ●対話の内容の意味を理解して、その問いに対する適切な答えを選ぶ大問2では、市平均を1.6ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・日頃から、実際の場面を想定した聞き取り活動を繰り返し行い、概要や要点を捉える力を付けていく。また、聞き取る力を育てるため、口頭による対話形式での表現活動を取り入れていく。 ・対話文や比較的に長い文を聞く際は、メモを効率的に使用する指導も継続的にしていく。
読むこと	平均正答率は59.6%で1.2ポイント低かった。 ○メールの内容の英文を読み取る問題の正答率は市平均を上回った。 ●大問6(1)の語形・語法の知識・理解を問う対話文の問題は、全て市平均を下回った。	・長文は概要や要点の読み取り練習、図や表を適切に読み取らせるための練習を引き続き行っていく。 ・基礎的な語形・語法が知識として定着していないことが課題である。文法の導入時にはパターンプラクティスを多く取り入れたり、こまめに小テストを実施する。 ・また、それらの文法を対話文のどの部分で使用するべきか理解ができていないので、その使用場面・状況も併せて、定着させる。
書くこと	平均正答率は54.8%で市平均を2.7ポイント下回った。 ○基本的な文の語順を理解し、単語を並べかえる大問9では、市平均を上回る中間問題もあった。 ●SV00の文、don't have to～を用いた単語の並び替えによる英作文は、市平均をそれぞれ10ポイント、9.6ポイント下回った。	・3文以上の英作文では、「部活動に対する自分の考えや意見を述べる。」ということで、基本的な文法で十分に対応できたと考えられる。今後も、時事的な問題についても自分の意見や感想を述べられるよう、テーマに沿った語彙や表現方法を学習する機会を多く取り入れていく。 ・並び替えの正答率からは、英語の基礎的な語順の定着ができていないことが考えられる。日本語の語順との違いを理解させる活動を取り入れていく。

宇都宮市立豊郷中学校

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・授業公開期間の相互授業参観による授業力向上の推進 ・教科部会による授業力向上の研鑽	・「一人一授業」を実施し、教科を超えて参観することで授業工夫の参考にする。 ・教科部会において、特にICT機器を効果的に授業に取り入れる工夫についての話し合いをもつ。	・「学校の授業がどの程度分かりますか。」という項目に対する肯定割合は、1・2学年では市の平均を上回っているが、3学年では下回った。(1年2.8ポイント、2年4.9ポイント、3年4.5ポイント) ・「パソコンを使って、相手に分かりやすく自分の考えや調べたことを伝えることができる。」という項目に対する肯定割合は、1年生では市の平均を0.2ポイント下回ったが、2・3年生では上回った。(2年1.8ポイント、3年0.8ポイント)
・家庭学習のための「自主学習ノート」の活用 ・週1回のAIDリルの日の設定	・委員会が中心となって家庭学習に積極的に取り組ませ、毎日「自主学習ノート」を提出するよう指導する。 ・週一回、AIDリルを用いての学習時間の設定。	・「授業で習ったことを、その日のうちに復習している」という項目に対する肯定割合が、各学年ともに市の平均を上回った。(1年7.6ポイント、2年10.9ポイント、3年3.8ポイント)

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・「授業が分かる」と生徒が実感できるような、生徒の興味・関心を高めるための課題提示や授業展開の工夫、評価方法の工夫、分かりやすい授業の実践に努める。そのために、より一層、「一人一授業」の参観や教科部会を活用し、教科間はもちろんのこと、他教科からもお互い研鑽しあえるような場を活性化していく。
- ・生徒が主体的に学び、協働して問題解決にあたれるような活動を取り入れる。自分の意見を進んで発言できる生徒に限られるので、生徒全員が話し合いに進んで参加し、自分の意見を自信をもって発表できるように、話し合いの仕方や場の工夫をしていく。
- ・ICTを主体的、協働的に学ばせる効果的に生かしていく方法について、教科部会で研鑽を重ねる。
- ・引き続き、委員会を中心とした家庭学習の推進を図っていく。